

田村のつぶやき 第38号

2025.2.12 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

天国と地獄

今回は、ある「おとぎ話」を紹介します。

ある人が、ご臨終ということになって冥途へ旅立つことになりました。閻魔さんのところへ行くと、天国行きか地獄行きかの決定が下るまでしばらく待てということです。ちょっと見物してみようと思い、とりあえず地獄の入り口から中をこっそりのぞいてみました。地獄というから赤鬼や青鬼が亡者を責め立てているのかと思いきや、小ざっぱりとした洋間にテーブルが並んでいて、周りに大勢の人が腰掛けています。テーブルの上には豪勢な料理でいっぱいです。「はてな？ 地獄と言うけれど、まんざらでもないな。」と思いつつ、座っている人たちを見回してビックリ。みんな真っ青な顔をして痩せて骨と皮ばかり、目も落ち込み、実に哀れな姿です。何で目の前のごちそうを食べないのかと思いつつ、あらためてよく見ると、全員の左手がイスに縛りつけてあります。「なるほど身動きがとれなくてしてあるのか。では右手はどうかな。」と見ると、右手にはスプーンが縛ってあります。「あのスプーンでごちそうをすくって食べたらよさそうなのに。」と思いつつよく見ると、そのスプーンがとてつもなく長くて1メートルもあるのです。遠くの皿からごちそうをすくい、さて食べようとするするとスプーンが長くて口まで届きません。みな背中にかぶるばかりで、口には何も入らない。それで「おまえが悪い。」「きさまが気がきかん。」と言って互いにののしりあっているのです。

「なるほど、これはまさに地獄だ。」と思って、今度は天国の入り口から中をこっそりのぞいてみました。天国というから観音様や天女様でもいらっしゃるかと思いきや、小ざっぱりとした洋間にテーブルが並んでいて、周りに大勢の人が腰掛けています。テーブルの上には豪勢な料理でいっぱいです。「はてな？ 天国も地獄と同じじゃないか。」と思いつつ、イスに座っている人たちを見回してみます。するとこちらは、みんな血色もよく、ニコニコ笑いながら楽しそうに話をしています。しかし、全員の左手がイスに縛りつけてあることは地獄と同じです。右手にもあの長いスプーンが縛ってあります。「はてな？ 地獄も天国も同じだ。どうしてこんなに人の気持ちが違ってくるのかな。」と、しばらく様子を見てみると、天国の人たちは、テーブルのこちら側の人が、長いスプーンでごちそうをすくって「さあ、おあがりください。どうぞ。」と向こう側の人に差し出しています。すると向こうからも「ありがとうございます。どうぞ、あなたも。」とスプーンを差し出してくれるから「ありがとうございます。頂戴します。」と、こちら側の人も笑顔で答えています。

「なるほど！ 地獄と天国の違いはここだな。自分だけ食べることをしか考えない連中が集まると、この世は地獄になるし、まず周りの人に食べさせることを考えていけば、この世は天国になる。地獄といい、天国というけれど、それはあの世のことではなく、この世のことだな。」と気がついたら、布団の上ではっと目が覚めたのです。

ちょっと説教臭い話かなとは思いますが、とても示唆に富んだ内容です。「利己」と「利他」のあり方についての寓話とも言えます。みなさんは、この話を読んで何を感じましたか？